

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 047	提案機関名 小田原市漁業協同組合
要望問題名 台風で消失した藻場の回復技術の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 【背景】 当漁協の片浦地区は、藻場が広がり、サザエやアワビなどの磯根資源が豊かな地区です。また、新たに裸潜りに着業する組合員も多く、磯根資源の重要性はますます高まっています。しかし、近年の巨大台風の影響により藻場が消失し、残ったサザエやアワビ等もやせ細ってしまい危機的な状態にあり、一日も早い藻場の回復が求められています。 【内容】 近年、三浦半島ではアイゴなどによる磯焼けが進み、アイゴの駆除やスポアバックの設置など様々な方法がとられていると承知していますが、当地区に最も合った藻場の回復方法を研究していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場、栽培推進部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 漁場環境保全調査、磯焼け緊急再生支援事業		
対応の内容等	<p>相模湾試験場では片浦地区の藻場の回復を図るため、漁場環境保全調査により残存する藻場の状況と、台風やアイゴによる食害等の衰退要因を把握します。また、衰退要因を人為的に低減し藻場を回復する方法を提示し、地区の漁業者のご協力を頂きながら実施します。</p> <p>なお、栽培推進部では城ヶ島の刺網漁業者の野帳データを基に、アイゴの来遊と物理的環境（水温、海況等）との関係について分析中です。また、令和29年度から実施したウニ類および植食性巻貝の駆除効果試験において、継続的な駆除が藻場の回復に対して一定の効果をもたらすことを示唆する結果が得られました。令和2年度から藻場回復に向けた調査研究に着手しました。今後も普及指導部門と連携しながら磯焼け対策に係る調査研究と情報収集に努め、有益な情報がありましたら逐次提供してまいります。</p>		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			